

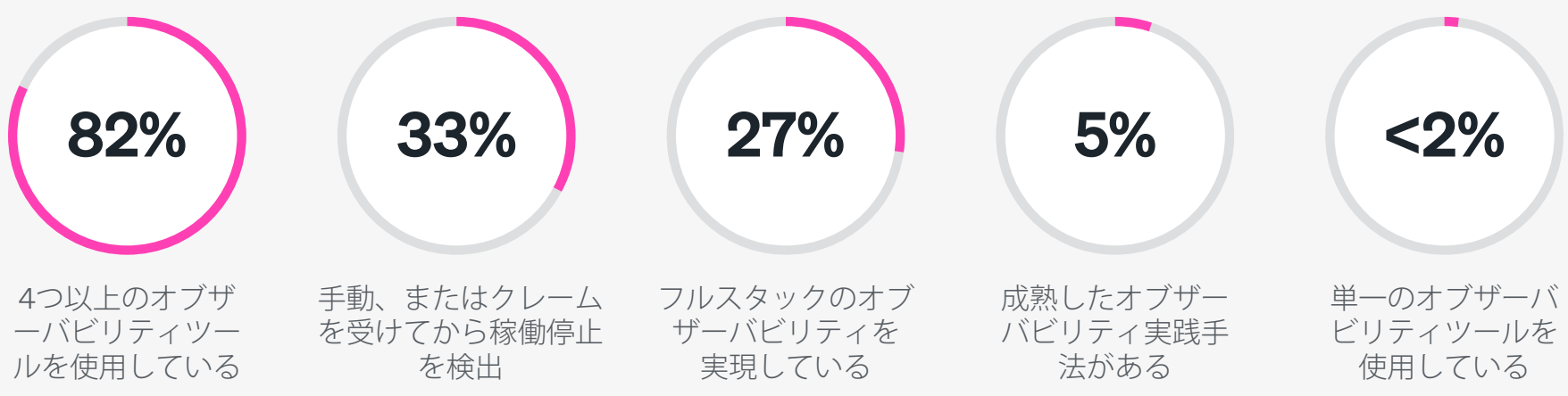
2022年のオブザーバビリティ予測の注目点

New Relic は、オブザーバビリティ (o11y) に関する新たな洞察を得るために、Enterprise Technology Research (ETR) と提携して第2回年次オブザーバビリティ予測レポートを発表しました。今回、ETRは北米、ヨーロッパ、アジア太平洋地域にまたがる14か国の1,614人に対し調査を実施しました。回答者の地域別割合はそれぞれ31%、44%、25%でした。また役職別内訳は65%が実務担当者、35%がIT意思決定者 (ITDM) で、その中には経営幹部 (Cスイート) と非経営幹部のマネージャーも含まれていました。主な調査結果の概要は以下の通りです。レポート全文と方法論を見る。

上位11の重要ポイントと洞察

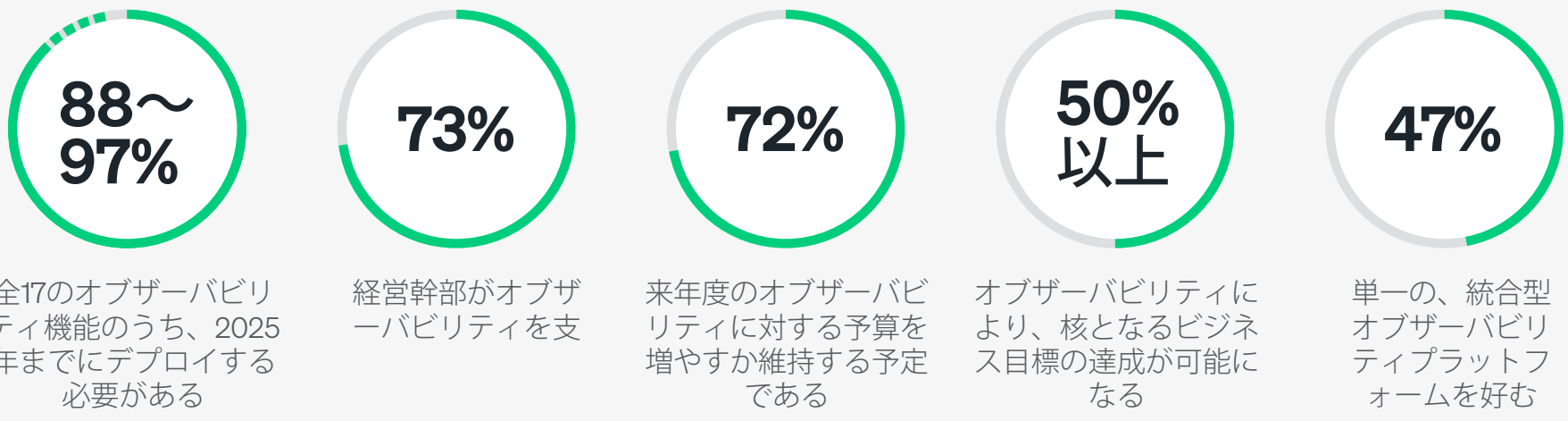
課題

監視の断片化。現在、ほとんどの組織は技術スタック全体を監視していない。



機会

オブザーバビリティはサービスレベルのメトリクスを改善。組織はその価値を実感しており、さらなる投資をする予定。



優先順位付け/オブザーバビリティの達成



「オブザーバビリティ、モニタリングそして情報セキュリティは、重なる部分が多いため、より緊密に連携し、共通のプラットフォームを活用することができます。1つのツールですべてを提供できるという点で、それは今後より重要性が高まるでしょう。」

— 大手小売企業の上級副社長兼最高技術責任者

重要な洞察

| | | |
|-------------------------------------|--|-------|
| オブザーバビリティのニーズを牽引する上位3つの技術戦略/トレンド | セキュリティ、ガバナンス、リスク、コンプライアンス重視の高まり | 49.1% |
| | クラウドネイティブのアプリケーションアーキテクチャー (フロントエンド) の開発 | 46.8% |
| | 顧客体験管理 (CEM) 重視の高まり | 44.8% |
| オブザーバビリティの上位5つのメリット | アップタイムと信頼性の向上 | 35.6% |
| | 運用効率の向上 | 34.6% |
| | 顧客に影響が及ぶ前に問題を事前に検出 | 33.3% |
| | 顧客体験の向上 | 33.1% |
| | 当社のアプリおよび/またはシステムの回復力への開発者の信頼 | 31.1% |
| オブザーバビリティがエンジニア/開発者の生活改善に役立つ上位3つの方法 | 生産性の向上 (問題のより迅速な検出と解決) | 34.4% |
| | チーム間の協働を実現 (DevOps、DevSecOps) | 32.5% |
| | 複雑で分散した技術スタックを管理する場合の当て推量を低減 | 30.0% |
| オブザーバビリティの上位3つの主な使用事例 | クラウドのリソース使用と支出の最適化 | 31.2% |
| | 競争優位性の向上と確立のために、デジタルトランスフォーメーションの取り組みを支援 | 30.8% |
| | コンテナ化されたサーバーレスの環境を管理 | 29.3% |

レポート全文を見る